

「デジタル放送研究会'2」活動報告

(研究会幹事 天野 篤)

学会「デジタル放送研究会」は、今年度、「報告会」と調査研究成果のとりまとめを行いました。本稿では報告会の概要を中心に示しますが、学会事務局に録画 DVD もあります。成果は、学会ホームページの『災害調査・研究 (研究) ◆第二次「デジタル放送研究会」活動報告 (最終版)』に、オムニバス形式で掲載しました。また、4 年余続けてきた研究活動の全体像は、学会 News Letter 37 の藤吉洋一郎研究会代表の記事をご覧ください。

表1 第二次研究会コアメンバー

氏名	所属 (2008年3月当時)
藤吉 洋一郎 (代表)	大妻女子大学
大西 勝也	大妻女子大学
小田 貞夫	十文字学園女子大学
加藤 宣幸	(株)建設技術研究所 (財)国土技術研究センター
川端 信正	静岡県地震防災センター
蔡 垂功	大阪市
桜井 美菜子	気象庁熊谷地方気象台
鷹野 澄	東京大学地震研究所
田代 大輔	(財)日本気象協会
谷原 和憲	日本テレビ放送網(株)
東方 幸雄	東日本電信電話(株)
中村 功	東洋大学
中村 信郎	日本災害情報学会事務局
水上 知之	三重県
天野 篤 (幹事)	アジア航測(株) (独)防災科学技術研究所

1. 報告会

● 第I部 地震時の情報提供

NHK 新潟放送局の鈴木氏からは、「地デジ時代の災害報道 2007 新潟県中越沖地震」と題し、被災地に向けた「くらし安心情報」緊急モード「データ放送」、災害報道としては初めて行われたローカル発「マルチ編成」の裏話や苦労話を交えながら体験が紹介された。課題として、①本部から要員・機器の支援

地方局のニーズに応じた、臨機応変な制作要員と情報端末の支援が必要

②『情報』の効率的な共有・運用システム

報道原稿・自治体発表資料などを、放送局内で共有、マルチユースするためのシステムが欲しい
現状のデータ放送の情報編集枠

オンエアから漏れる取材情報等も数時間毎に載せ替えたが、データ放送画面の階層構造、文字数などに限界

④避難所等へのデジタルテレビ設置、デジタル放送 PR 視聴者(被災した人々)にデジタル放送を見てもらう、活用してもらうための工夫(広報活動)が必要
があげられた。

また関連した話題として、東方氏からは、最近の地震時の安否情報(災害用伝言ダイヤル 171)の利用状況等について、澤氏からは、現地調査で訪れた長岡市の災害情報伝達の新たな取り組みについて、紹介があった。

新技術には多くの利点があり、災害時、複数の伝達経路を持つことが重要。広域同報性に優る放送、時と場を選ばない地デジワンセグ・携帯とを組み合わせ、緊急度重要度の高い万人向けベーシック情報と、対象者別のきめ細かいオプション情報とを、互いに補いあえるように組み合わせたい。そのためには、送り手のマンパワーやリソースの負担を軽減することと、さまざまな受け手が必要な情報に容易にたどりつけるようにすることがこれからの宿題、と座長は締めくくった。

● 第II部 洪水時の情報提供

(財)河川情報センターの佐藤氏からは、「放送と通信を活用した河川情報の提供」と題して、地デジと通信の組合せや、携帯端末を利用した、①大和河川川口市避難訓練、②荒川下流河川板橋区避難訓練の実施内容や課題が紹介された。訓練に参加した人へのアンケート調査では、データや地図やアイコンの見せ方に対する注文が出たと報告された。

表2 報告会プログラム

日時	内容
2008年7月12日(土)	東洋大学白山キャンパス3号館3303教室(文京区白山5-28-20)
12:30 開場	総司会 田代大輔(気象キャスターネットワーク)
13:00-13:10	開会挨拶・研究活動概要 藤吉洋一郎(大妻女子大学)
13:10-13:50	第I部 地震時の情報提供 天野 篤(NIED・アジア航測) 招待講演:地デジ時代の災害報道・2007 新潟県中越沖地震 鈴木郁子(NHK 新潟放送局) 話題提供:2007 中越沖、2008 岩手・宮城内陸地震時の171安否確認 東方幸雄(NIT 東日本) 長岡市が取り組む多様な災害情報伝達 澤 陽之(SFF・アジア航測)
13:55-14:35	第II部 洪水時の情報提供 藤吉洋一郎 招待講演:放送と通信を活用した河川情報の提供 佐藤宏明(FRICS) 話題提供:荒川下流河川板橋区避難訓練実験を視察して 鷹野 澄(東京大学) 大和河川川口市避難訓練実験を視察して 蔡 垂功(大阪市)
14:50-15:35	第III部 韓国における災害情報提供 天野 篤 帰朝報告:韓国における放送と通信を用いた災害情報伝達 中村 功(東洋大学) KBS(韓国放送公社)の災害放送の今 大西勝也(大妻女子大学) ユビキタス社会の住民一人ひとりへの防災情報提供 水上知之(三重県)
15:40-16:40	第IV部 総合討論・総括(提言) 藤吉洋一郎 パネリスト:天野 篤 國崎信江(子どもと大人の危機管理教育研究所) 佐藤宏明 鈴木郁子 東方幸雄 中村 功
16:40-16:45	閉会挨拶 中村 功

また関連した話題として、鷹野氏からは、上記⑥を視察した際の感想として携帯端末の有用性が、蔡氏からは、上記②を視察した際のデータ放送画面の使い勝手（例えば一個のリモコンボタンで回転式にメニュー切替できた）など、参加した住民の反応に基づく報告があった。

● 第Ⅲ部 韓国における災害情報提供

中村氏からは、「韓国における携帯電話を用いた災害情報伝達」と題し、CBS（基地局エリアごとの文字情報一斉配信）が韓国では早くから取り入れられ、災害文字放送サービスが運用されていることが報告された。日本と逆に、CBS DMB（ワンセグ）の順で携帯向け同報技術が進んでいる。CBS と DMB の連動は、輻輳が発生しないこともあり、災害時の情報伝達に大いに有効とされた。

加えて大西氏からは、KBS（韓国放送公社）のワンセグを利用した災害放送計画についての詳しい紹介、また水上氏からは、ユビキタス先進国、韓国消防防災庁の災害情報 CBS の仕組みなどについて報告があった。

さらに会場を交えた質疑応答では、国内ではじめて緊急速報「エリアメール」の災害・避難情報配信を始めた飯能市の池田氏から、取り組み状況が紹介された。

● 第Ⅳ部 総合討論・総括

最後に各部の報告者が集まり、提言に向けたパネルディスカッションを行った。要点として、

①データ放送や携帯端末などの操作性

- ・機能が高度化するほど、ユビキタス（いつでも・どこでも・だれにでも）から遠ざかっているのではないか
- ・国土交通省と河川情報センターが行った実証実験は、放送や通信業界にとっても貴重な試行提言
- ・発災直後に強く誰もが使えるアナログラジオや、高機能が期待されるデジタルラジオの存在もヒント
- ・クロスメディアで配信される情報の相互連携
- ・今後とくに期待される携帯電話の、キャリア事業者毎

の取り組みの温度差解消

- ・災害情報の発信の一元化には、制度や機関を包括した共有プラットフォームが必要
- ・災害情報へのアクセシビリティ確保のために、メディア間、キャリア間の壁を超えた道案内が必要などの議論が交わされ、座長から提言にまとめられた。

【提言】

日本災害情報学会デジタル放送研究会は第二次調査研究で、さまざまなメディアがそれぞれの特性を活かして災害情報を国民一人ひとりに届ける、そういう可能性を一段と広げてきた現況を認識することができた。いままさにマルチメディアが展開される状況にあるといえる。

しかし一方で、そういう最先端のメディア状況についていけない人もたくさん出てきた問題が見逃せなくなっている。わたしたちは今後、メディアの可能性を追求していく一方で、こうした情報格差をなくしていくことにも気を配っていきたい。そのためにはメディアには自分のメディアの扱う情報だけではなく、より詳しい情報はどこにあるか、その人のメディア環境に応じた情報はどこにあるかなどを、メディアを超えて互いに情報提供し合うことが求められており、またそれがメディアの責務ではないかと考える。今日のマルチメディア状況の中で、災害情報を被害の軽減にますます役立てるには、それぞれのメディアが更なるサービスを競う一方で、メディアからメディアへと誘導していく情報ナビゲータのような役割をも目指して行かれることを期待してやまない。

2. 調査研究成果

第二次「デジタル放送研究会」調査研究最終報告は、http://www.jasdis.gr.jp/06chousa/2nd_contents.htm に掲載しています。表 2,3 に示すそれぞれのプレゼン、資料、報告類がたくさんリンクされていますのでご覧ください。

最後になりましたがお礼です。本研究は、学会の支援の下、(財)放送文化基金「平成 16・18・20 年度助成・援助」を受けて実施しています。有難うございました。

表 3 第二次研究会活動一覧

年月日	活動	場所	テーマ	講師 (調査者)
07年5月11日(金)	No1 勉強会	河川情報センター	デジタル時代のメディアへの新たな河川情報提供について	FRICS 佐藤宏明氏
07年6月11日(月)	No2 勉強会	東京大学地震研究所	NTTドコモの防災への取り組み ~携帯電話を活用した情報配信~	NTTドコモ 伊藤正憲氏ら
07年7月13日(金)	No3 勉強会	大井町 きゅりあん	平時の地域コミュニティ形成のための情報共有基盤(eコミュニティプラットフォーム)を活用した自助・共助・公助の協調による災害対応(災害リスクガバナンス)に関する研究動向	防災科学技術研究所 長坂俊成氏ら
07年8月3日(金)	No1 施設見学	ドコモ品川ビル	NTTドコモネットワークテクニカルオペレーションセンター視察	NTTドコモ 伊藤正憲氏ら
07年9月12日(水)	No1 現地調査	新潟県新潟市・長岡市内	長岡市役所・北陸地方整備局・NHK 新潟放送局・NPO 住民安全ネットワークジャパンピアリング	(藤吉・天野・澤・東方)
07年10月19日(金)	No4 勉強会 No2 施設見学	NTTさいたま新都心ビル	NTTグループの防災対策 ~災害時の情報通信技術~ NTT 全国ネットワークオペレーションセンター視察	NTT 東日本 東方幸雄氏ら
08年2月24日(日)	No2 現地調査	東京都板橋区内	携帯ハザードマップによる避難訓練 携帯端末による洪水ハザードマップ実証実験の体験	(藤吉・鷹野・谷原)
08年3月13日(木)~15日(土)	No3 現地調査	韓国ソウル市内	「CBS・T-DMB・データ放送海外事情」韓国ソウル市(KBS、OMNITEL 社)先進事例視察	(藤吉・天野・大西・小田・國崎・東方・中村功・水上)
08年3月20日(木)	No4 現地調査	大阪府堺市内	堺市内「大和川避難訓練時地上デジタル放送実証実験放送」見学	(藤吉・天野・加藤・蔡・谷原・中村・水上)
08年3月21日(金)	No5 現地調査	NHK 京都局	NHK 京都放送局データ放送ピアリング	(藤吉・天野・中村信郎)
08年3月22日(土)	聴講派遣	大阪府大阪市内	京大防災研シンポジウム <防災・減災と報道の役割> ~発生が憂慮される巨大災害に向けて~参加	(天野・蔡・水上・中村信郎)
08年6月26日(土)	番外見学編	千葉県木更津市内	~「美しく・まると・そなえる家プロジェクト」by TEAM KUNIZAKI~見学	危機管理教育研究所 國崎信江氏